

# 浸水が想定される区域における避難行動

# 浸水発生時における避難の心得

## 避難の原則



避難の原則は、避難所など危険性のない場所へ早期に移動する「立ち退き避難」です。  
ただし、道路の冠水や河川の氾濫、土砂災害など避難するには危険な状況と判断される場合は、近隣の安全な場所（頑丈で2階建て以上の建物や標高の高い場所）や「屋内安全確保」により安全を確保しましょう。

## 立ち退き避難（水平避難）と屋内安全確保（垂直避難）

### 立ち退き避難（水平避難）

危険な場所から指定避難所等の安全な場所に避難すること

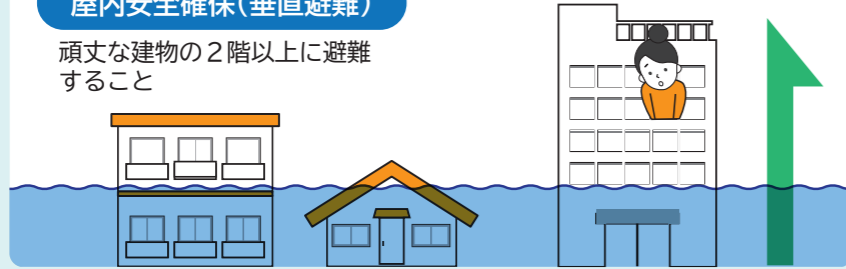


### 注意点

避難経路が浸水した場合、移動は危険なことから、浸水などが発生する前に避難する。

### 屋内安全確保（垂直避難）

頑丈な建物の2階以上に避難すること



### 注意点

浸水が長時間続いた場合、取り残されてしまう危険性があるので非常備蓄品や連絡手段なども必要です。

## 早期の立ち退き避難が必要な区域

家屋が倒壊するような氾濫や河岸侵食が発生するおそれがある区域、家屋の最上階も水没するおそれがある区域は特に早期の立ち退き避難が必要です。

| 指定区域の種類         | 発生する現象と避難行動                               |   |
|-----------------|---|---|
| 早期の立ち退き避難が必要な区域 | 家屋倒壊等氾濫想定区域                               | <p><b>氾濫流</b></p> <p>堤防決壊などにより流速の早い「氾濫流」が発生するおそれがある区域です。木造家屋は倒壊するおそれがあります。</p>    |
|                 |   | <p><b>河岸侵食</b></p> <p>家屋が倒壊するような「河岸侵食」が発生するおそれがある区域です。地面が削られ建物ごと崩落するおそれがあります。</p> |
| 家屋が水没するおそれがある区域 | <p>最上階が浸水するおそれのある区域です。屋内に留まることはできません。</p> |   |



自宅等が安全な場合は、避難所等に行く必要はありません。

## 浸水による被害について

近年、集中豪雨の多発や台風の大規模化などで浸水被害が増えています。警戒レベルの発令や周囲の状況を確認して避難しましょう。

## 避難する際の心得

### 明るい間に浸水前の避難が原則！



浸水スピードは想像以上に早く、あっという間に避難が困難になることがあります。「まだ大丈夫」と思わずに、浸水し始めるまでに避難する。

### 立ち退き避難できるか状況を把握



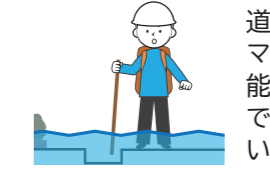
家の周囲や避難経路の状況と今後の予想を確認し、避難できる状況かどうかを把握する。夜間の場合や避難経路の浸水具合により屋内安全確保に切り替える。

### 浸水時の歩行は困難。屋内安全確保へ



歩ける深さは約50cmです。水深が腰までであるようなら無理は禁物。高所で救助を待つ。

### 見えない足元に危険が潜んでいる

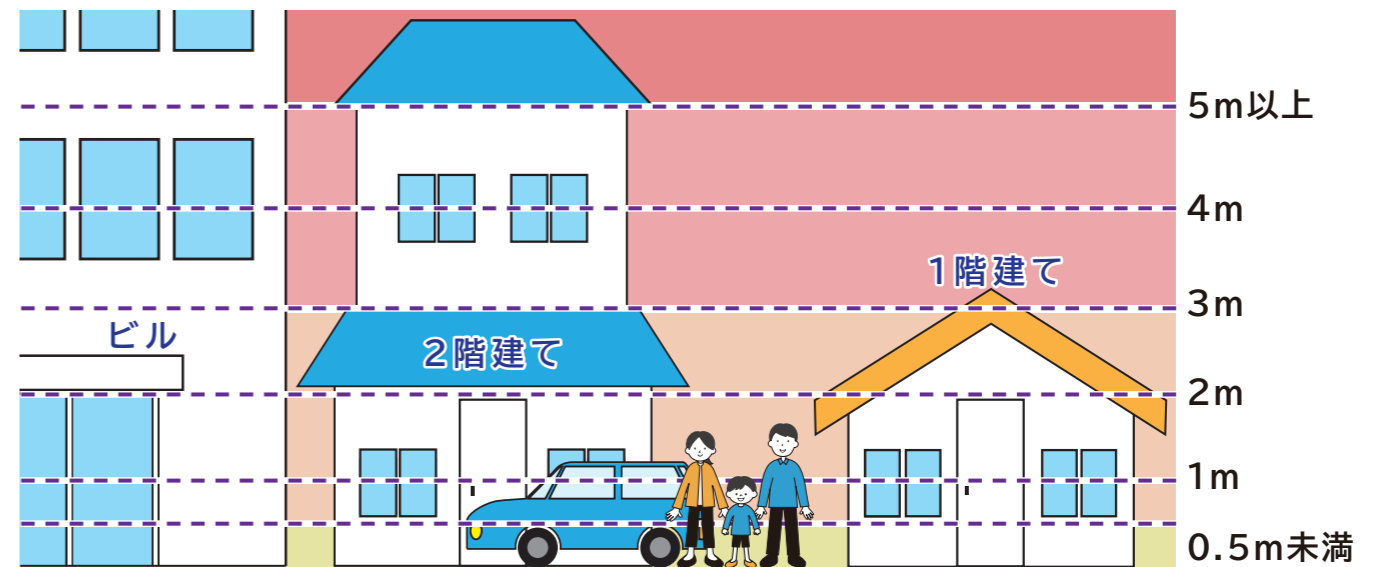


道路冠水時には、側溝、水路、マンホール（蓋が外れている可能性がある）が見えなくなるので、深みや溝を確かめるため長い棒を杖にしながらか歩く。



・ 浸水前の避難！ ・ 明るいうちに避難！ ・ 周りを誘って避難！

## 浸水の深さの目安



### 0.5m未満の浸水

・ 床下浸水のおそれ  
・ 大人の膝あたりまで浸水  
・ 歩いて避難する場合は十分注意



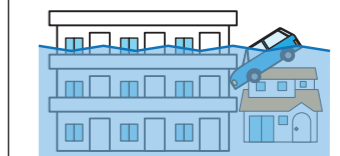
### 0.5m～3m未満の浸水

・ 1階部分まで水没のおそれ  
・ 歩いて避難は危険



### 3m以上の浸水

・ 2階以上が水没のおそれ



浸水が想定される区域は早期の立ち退き避難をしましょう。